

# 2019年度第2四半期業績のご報告

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

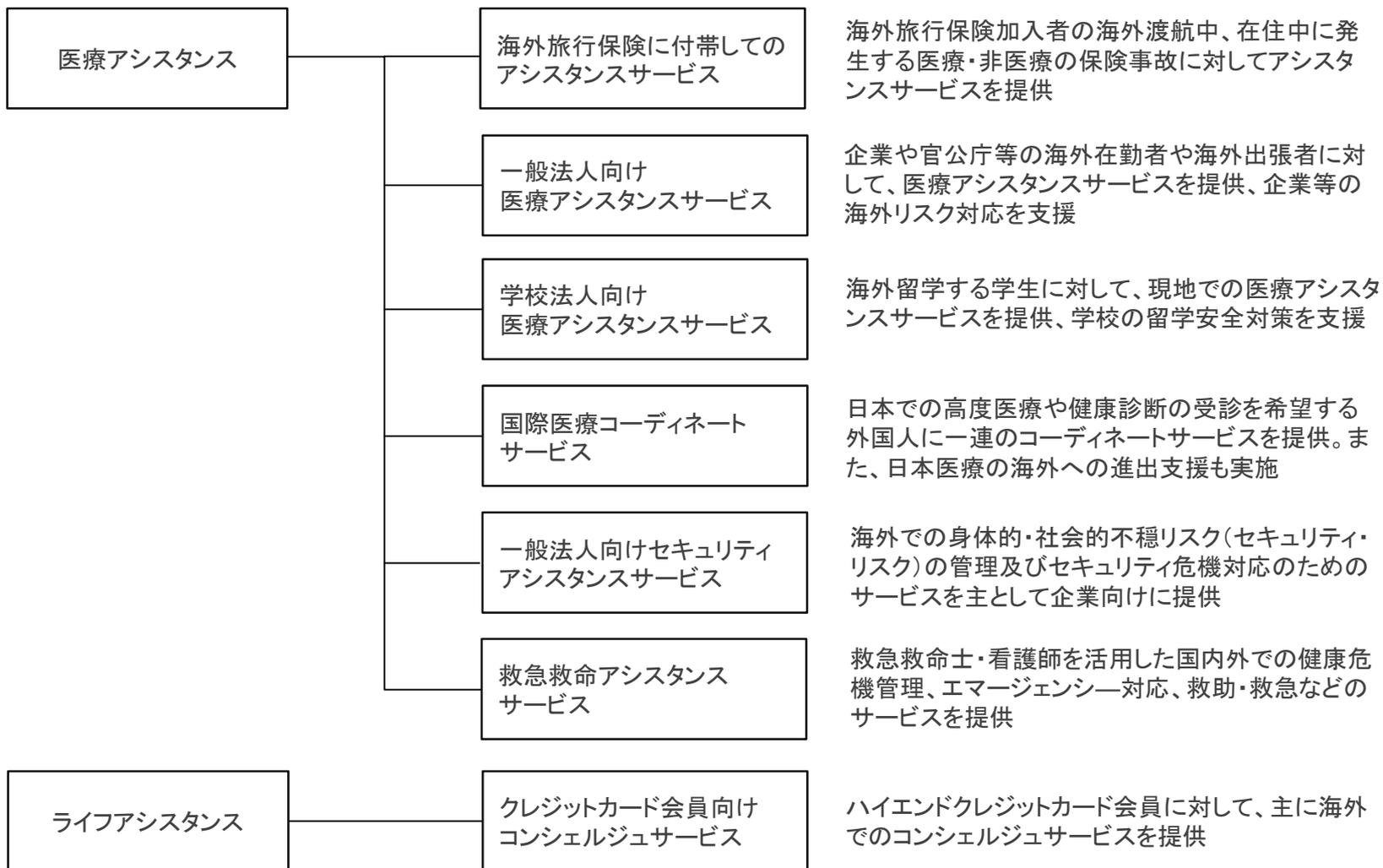
2019年8月13日

# I . EAJ事業内容のご説明

# 当社事業

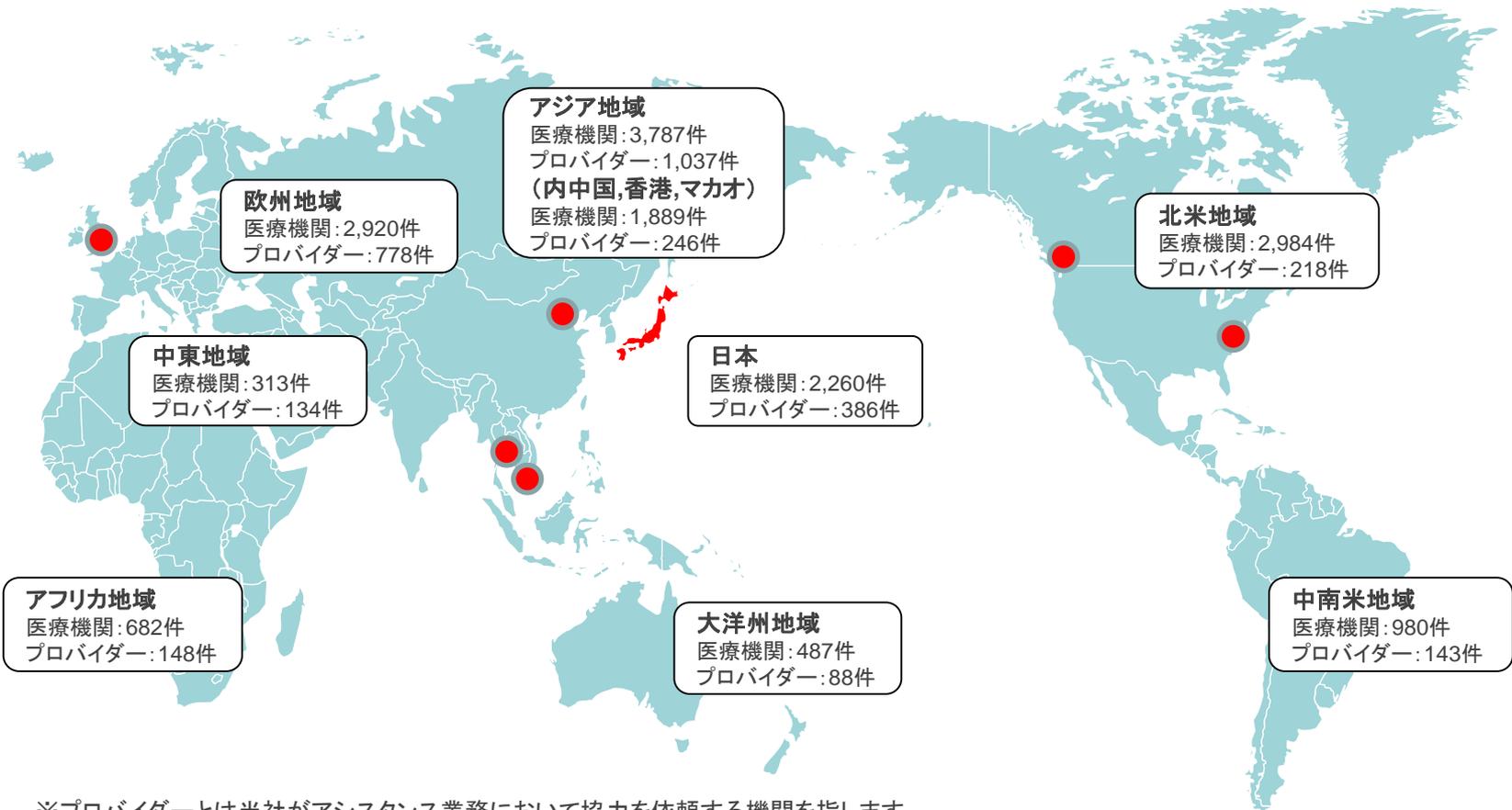
## 事業

## 展開する主なサービス概要



## EAJのネットワーク網

- 6ヶ国に海外センターを配置（● 米国、中国、タイ、シンガポール、英国、カナダ）
- 拠点数は全世界で12カ所、グループ要員数は310名
- 世界各国で約14,400件の医療機関と約2,900件の海外プロバイダーを活用しサービスを提供



※プロバイダーとは当社がアシスタンス業務において協力を依頼する機関を指します。  
 ※数字は2019年7月末時点のもの

## Ⅱ. 2019年度第2四半期連結累計期間の決算報告

## 決算業績サマリー

- 売上高 1,491百万円(前年同期: 1,391百万円)
- 営業利益 10百万円(前年同期: 72百万円)
- 経常利益 11百万円(前年同期: 63百万円)
- 当期純利益 5百万円(前年同期: 44百万円)
  
- 売上高は、1,491百万円と前年同期を7.2%を上回った。
  - 医療アシスタンス事業の売上高は前年比6.5%増となった。救急救命アシスタンス事業が減収となったが、下記3事業が好調であった。
    - 1) 海外旅行保険の付帯サービスは、海外出国者数の増加を追い風に、前年比売上増となった。
    - 2) 事業法人及び大学向けアシスタンスサービスは、ニーズの高まりを受け堅調に推移した。
    - 3) 外国人患者受入の医療ツーリズムも順調で、前年比売上増となった。
  
  - ライフアシスタンス事業の売上高は前年比10.1%増となった。

既存顧客への堅実なサービス提供が評価され、既存取引先からの新規業務受託等により、売上高が増加した。
  
- 費用は、事業拡大に備える下記の人員採用等により増加した。
  - 1) カナダセンターでの人員採用を行った。
  - 2) 緊急対応型インバウンドビジネスの人材採用・教育研修等を実施した。
  
- 営業利益は、10百万円(前年比85.4%減)となった。

## 直近のトピックス

- 緊急対応型インバウンドビジネス業務の拡大に対応する体制を構築
  - 訪日外客数の増加に伴う、緊急対応型インバウンドアシスタンスサービスへのニーズ増大に備え、多言語対応ができ、かつ医療の専門的な知識・ノウハウとをもつ高度な組織を構築した。
  - 3月13日には高山市等5者で「高山市における外国人観光客の緊急時の受入医療体制の向上及び防災・減災に係る連携に関する協定」を締結。外国人観光客の今後ますますの増加が見込まれるなか、他の地方自治体や医療機関との外国人患者受入に関する連携強化を促進していく。
- カナダバンクーバーの新アシスタンスセンターが営業開始
  - 1月のカナダバンクーバーのアシスタンスセンターの営業開始により、海外における医療アシスタンスの高品質サービスを地域的・時間的にシームレスに提供する体制が整った。
- 医療ツーリズムは順調に推移
  - 外国人患者受入の医療ツーリズムは、医療渡航支援企業としてのこれまでの実績と受入医療機関の増加により、売上増が続いている。
  - 中国での営業活動とWeChat等SNSによる広告宣伝活動を強化している。
- 新規顧客の海外旅行保険付帯のアシスタンスサービスを受託
  - 6月1日より、新たに某損害保険株式会社の海外旅行保険に付帯する医療・非医療のアシスタンス業務を開始した。

## セグメント別業績ハイライト

- 医療アシスタンス事業は、救急救命アシスタンス事業が減収となったものの、それ以外の事業は堅調で、増収となった。一方で費用に関しては、カナダセンターでの人員採用、緊急対応型インバウンドビジネスのための人材採用・境域研修等により増加し、減益であった。
- ライフアシスタンス事業は、既存取引先からの新規業務受託等により、増収となった。業務量増大への対応のため人件費コストが嵩んだものの、前年同期並みの利益となった。

(単位:百万円)

	前年同期		当期実績	
	売上高	利益	売上高	利益
医療アシスタンス事業	1,147	218	1,221	158
ライフアシスタンス事業	244	60	269	60
調整額※	-	△206	-	△208
セグメント合計	1,391	72	1,491	10

※ 調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。

※ セグメント利益の合計額は連結損益計算書の営業利益と一致している。

## 2019年第2四半期決算連結貸借対照表

- 医療アシスタンスサービス提供金額の増大に伴い、医療機関に対する立替払いが増加し、借入金が増加した。

(単位:百万円)

	2018期末 (構成比)	第1Q末 (構成比)
資産合計	2,277 (100%)	2,459 (100%)
流動資産	1,957 (%)	2,181 (%)
固定資産	319 (%)	314 (%)
負債合計	1,456 (64%)	1,683 (64%)
流動負債	1,417 (62%)	1,650 (62%)
固定負債	39 (2%)	33 (2%)
純資産合計	820 (36%)	811 (36%)

### 資産

-サービス提供金額の増大に伴い、とくに立替金が増加した

### 負債

-立替のため借入金が増加した

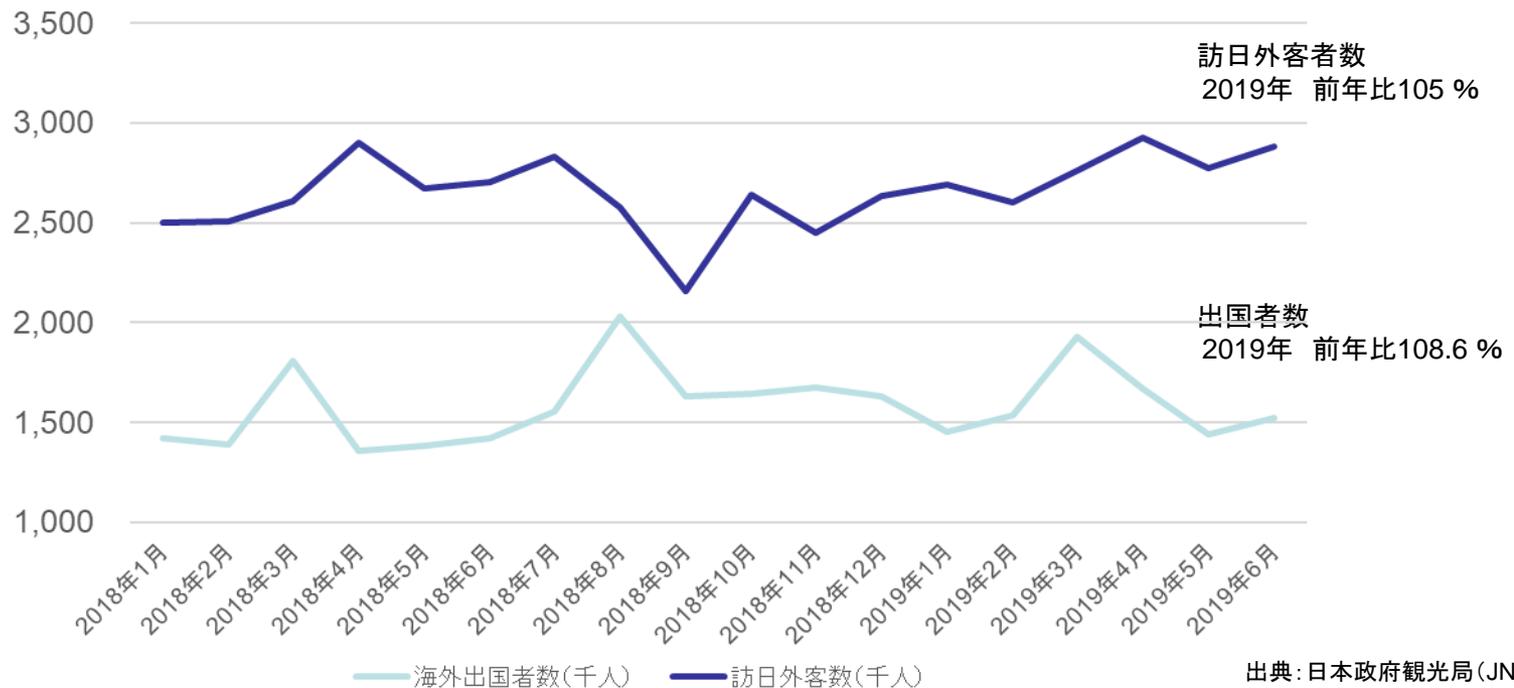
### 純資産

-当期純利益増加額を超過する借入

## Ⅲ. アウトバウンド事業について

## 海外出国者・入国者数の推移

- 2019年第2四半期も海外出国者数・訪日外客数ともに好調で、当社にとって外部環境は良好であった。
  - ▶海外出国者数は増加し、2019年第2四半期は前年同期比8.6%増であった。
  - ▶海外からの訪日外客数の増加も堅調で、2019年第2四半期は前年同期比5.0%増であった。



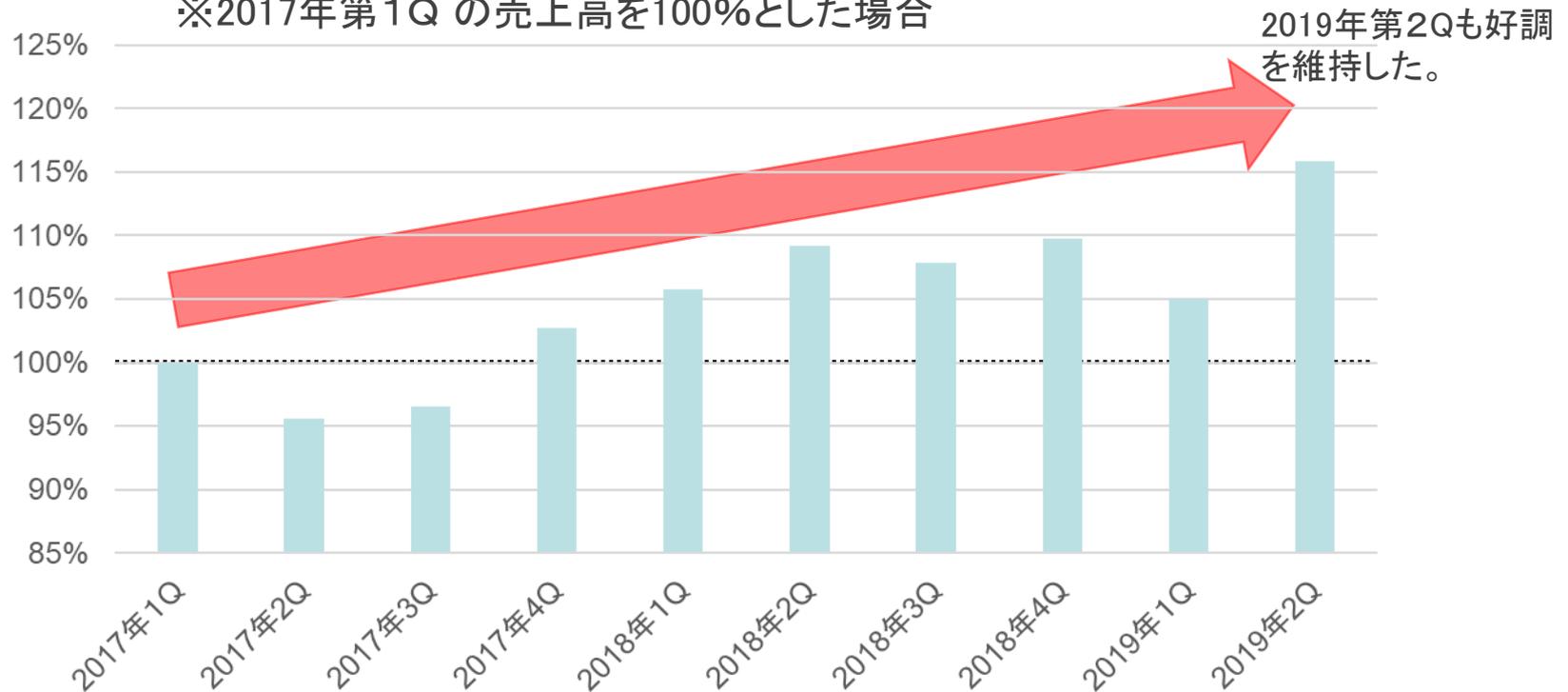
出典:日本政府観光局(JNTO)

## 海外旅行保険付帯サービスは順調に拡大

- 海外旅行保険付帯のアシタンスサービスは、海外出国者数の増加という好環境にも恵まれて、2019年第2四半期の売上も好調を維持した。

### 海外旅行保険付帯医療アシタンス売上推移

※2017年第1Qの売上高を100%とした場合



## 法人・大学売上は堅調に推移

- 企業の海外進出に伴う安全配慮義務などの海外危機管理の必要性の高まり等により法人・大学向けアシスタンス売上は堅調に推移している。
- 海外拠点(当社の海外センター)に当社社員が駐在していること、有事の際に医師や看護師を現地に手配する医療搬送ができることも当社の強みである。

### OSSMA LOCATOR(留学生危機管理サービス) アプリも好評



報告が完了すると  
報告日時が表示される

「現在地の報告と安否確認応答の簡素化」  
Eメールに加え、アプリへのプッシュ通知で誘導する「今ここ」ボタンによっても応答可能となり、現在地の報告と安否応答を手軽に実施できる。

### 「EAJプロジェクトアシスト」を民間企業に提供

【プロジェクト型 救急救命アシスタンスサービスのイメージ】



### 「EAJプロジェクトアシスト」

救急救命士・看護師が現場プラント、僻地サイトに常駐して現地医療体制を構築し、緊急時の救急対応と健康管理と傷害発生の未然防止をするサービス。

## セキュリティ・アシスタンスも好調

- 企業の海外進出が加速する中、企業に求められる安全、危機管理対策は重要性を増しており、海外出張者のみならず、現地赴任者についても本社主導による安全配慮義務の履行が必要となっている。
- EAJセキュリティアシスタンスプログラムは、アンビルグループ(※)の基盤を活用しサービスを提供している。
- セキュリティアシスタンスサービスの提供も順調で医療アシスタンスとセットで企業の海外危機管理を実施していく。

### 当社のセキュリティ・アシスタンスサービス

- ①24時間365日の日本語対応のセキュリティホットライン
- ②セキュリティ・リスク情報配信
- ③セキュリティ専門家によるアドバイス
- ④臨時危険情報提供
- ⑤暴動、テロ、政変の際の緊急退避(※)
- ⑥誘拐対応(※)

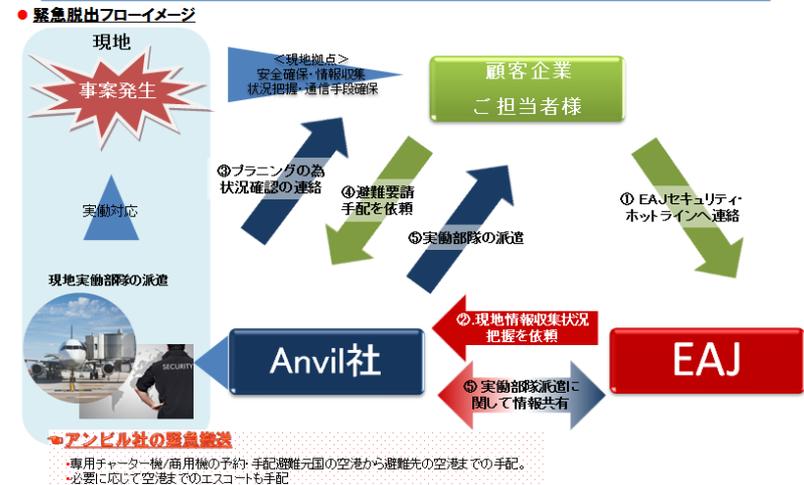
※サービス提供には実費と手数料が発生します。

#### ※アンビルグループ

アンビルグループは1988年にカナダで身辺警護サービスの会社として設立され、2006年以降本社をロンドンに移し、英国内務省のSIA(セキュリティ業認証局)の第一号認可を取得するなど経験豊富な緊急退避・移動警護などのフィジカルサービスに加え、2015年英国女王賞に輝くトラッキングサービスやリスクインテリジェンスのITサービスも提供するトラベルセキュリティの総合サービスプロバイダーとして多くの欧米企業を顧客としています。

### サービス提供例 緊急脱出フロー

暴動、テロ、政変などによって、治安が著しく悪化した場合、当該国の国際空港よりチャーター便等で緊急避難の手段を確保し、安全な国・地域までの緊急避難を実施します。



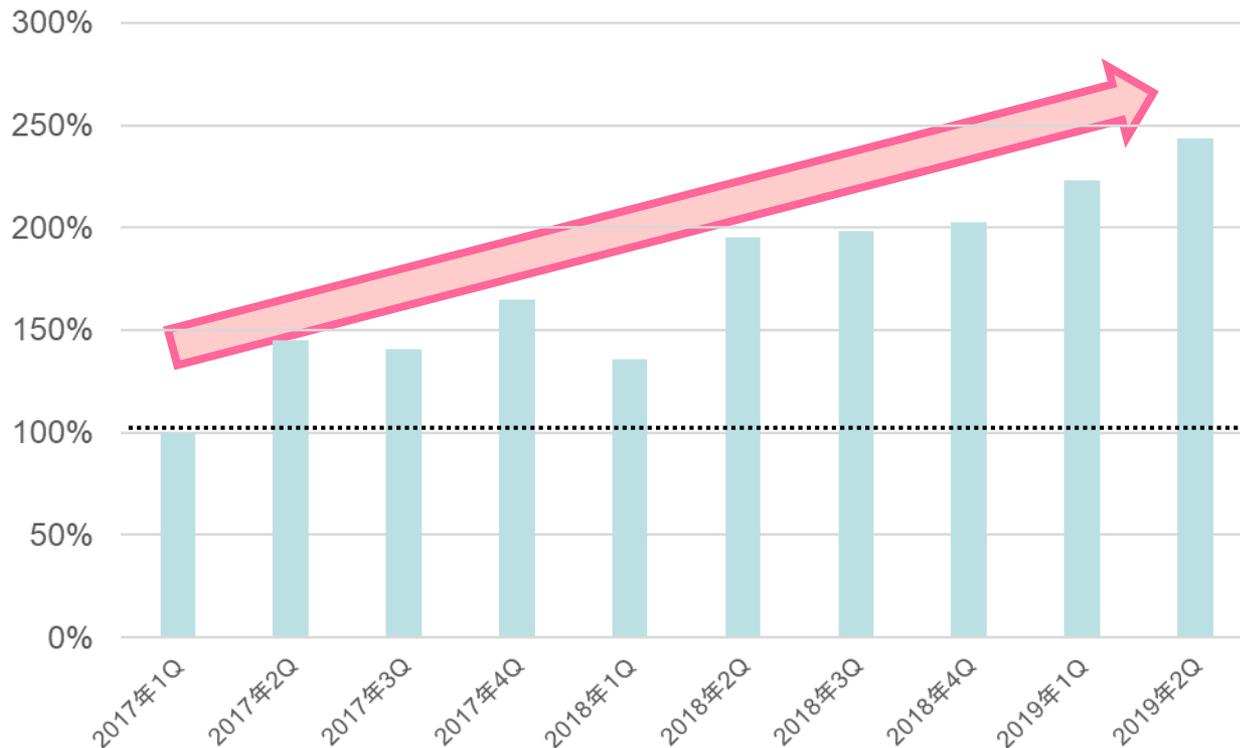
## V. インバウンド事業について

## 医療ツーリズムは堅調に推移

- 医療ツーリズム売上は順調に伸長している。
- 受入医療機関との連携関係強化において他社との差別化を図り、問い合わせ数および成約率を伸ばしている。
- 中国オフィスでの営業活動、WeChat等のSNSツールによる広告宣伝も強化中。

### 医療ツーリズム売上推移

※2017年第1Qの売上高を100%とした場合



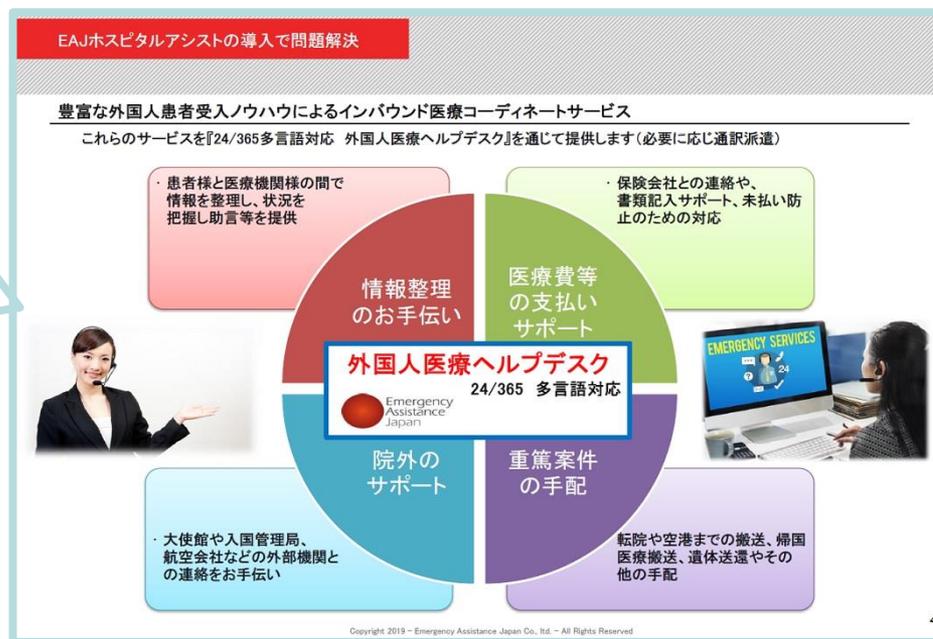
## 緊急対応型インバウンドについて

- 2019年はラグビーワールドカップ、2020年は東京オリンピックがあり訪日外国人の増加に伴い、外国人患者へ日本の医療機関を案内するサービスの需要の増加が予想される。
- EAJは外国人患者へのサービスに向け、多言語対応の新組織を整備し、ニーズを満たすサービスの開発・提案・提供をしている。

### 「EAJホスピタルアシスト」

文字通り、医療機関の外国人患者受入の体制づくりをサポート。

外国人医療ヘルプデスクを弊社コールセンターが一手に引き受け、医療コーディネーター、請求事務・回収業務等を行うサービスです。



## VI. 当社のビジネスモデルについて

## EAJ ビジネスの強み

### ビジネスの強み

- 国際医療搬送などの専門性を持ち、医療アシスタンスの全領域をカバー  
海外で病気や怪我をした患者様からの電話の受付、医療機関紹介から搬送までをワンストップで実施する会社は日本企業では当社だけである。
- インバウンド(外国人患者受入)事業のリーディングカンパニー  
外国人患者受入で業界でも主導的地位を保持し(医療ビザ申請第1号企業)、医療渡航支援企業に国内で初めて認証される。
- セキュリティ事業を強化、医療とセットで海外リスクマネジメントを実施  
全世界でセキュリティアシスタンスを提供。テロ活動などを踏まえた予防措置、緊急時支援、有事の際の緊急脱出など専門的な支援を実施。医療とセキュリティの総合リスク管理サービスを提供。

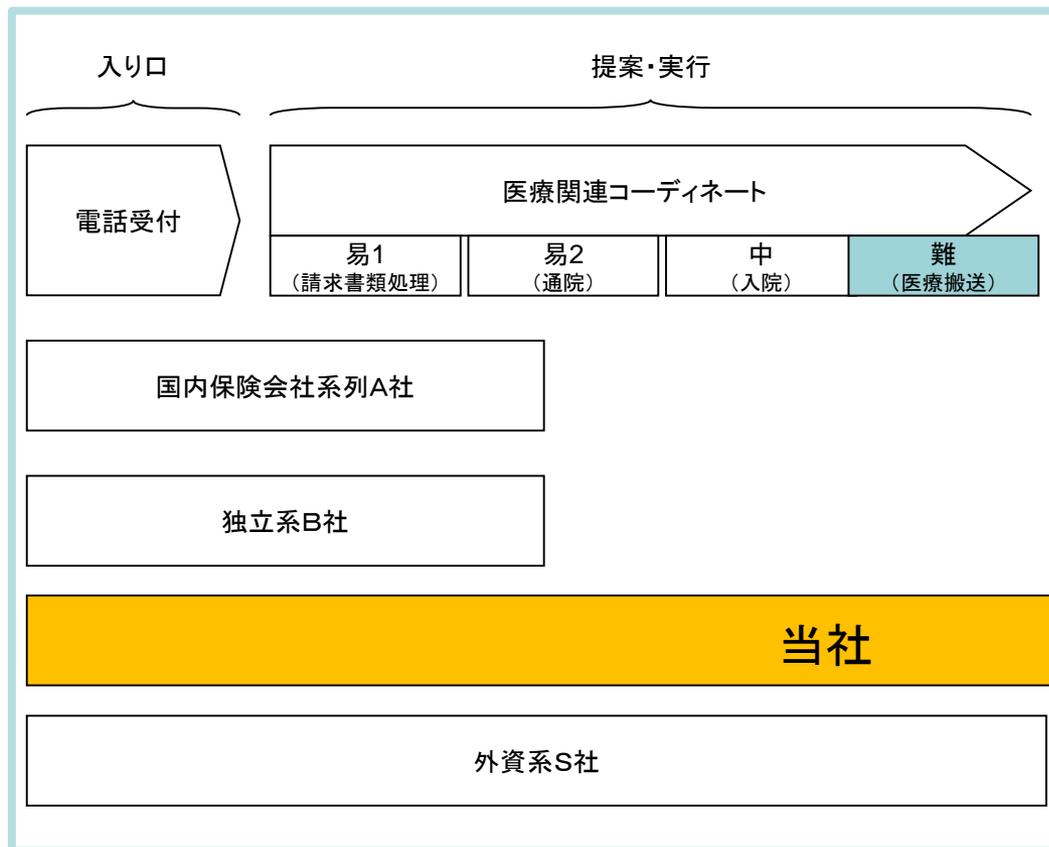
### 強みの源泉

- 高い新規参入障壁  
新規参入時に医療機関ネットワーク網の構築、バイリンガルのコーディネーター等優秀な人材の獲得・教育が必要であり、多額の初期投資がかかる。また、セキュリティ事業構築には独自の人的コネクションが必要である。
- サービス品質の高さ  
複数の言語を話し、保険と医療に詳しい日本人スタッフを多く擁し、日本人ならではのきめ細かいサービスを提供。医療搬送も日本人顧問医師が判断し、日本人医療チームによる搬送という差別化戦略(ジャパンスターダート)を採る。
- 独自性  
日本資本で唯一アシスタンス事業を専業とし、世界規模でサービスを提供。また、上場している(東証JASDAQ)アシスタンス会社は世界でも稀である。
- スケールメリットが働く  
オペレーションコーディネーターシステムは一定程度の投資が一巡すると待機時間があることから規模の経済性が働く。

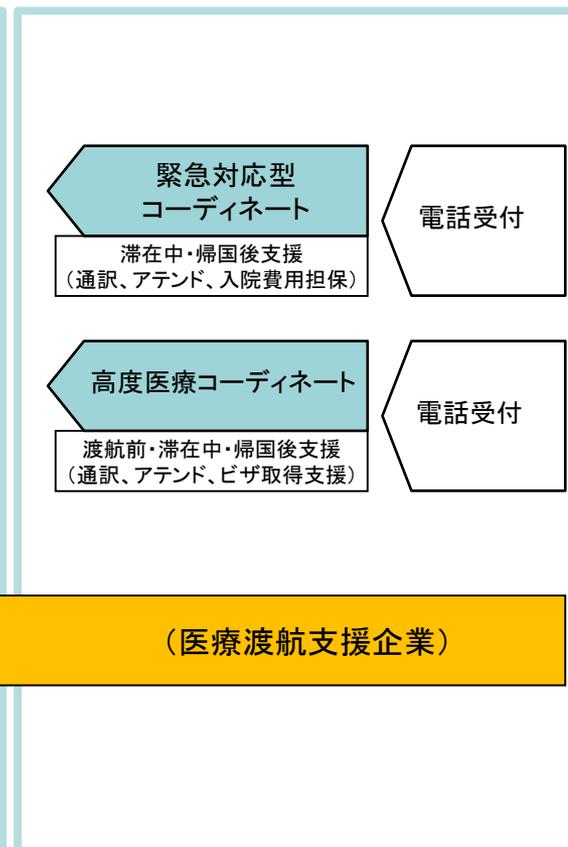
## 当社の医療アシスタンス事業領域

- 当社の医療アシスタンスはアウトバウンドでは医療搬送などの難易度の高い医療アシスタンスサービスを提供する点、インバウンドサービスにも力を入れている点で他社と大きく異なる。

### アウトバウンド (日本人に外国の医療機関を手配)



### インバウンド (外国人に日本の医療機関を手配)



## EAJは医療搬送に強みを持つ

- 医療搬送とは
  - 顧客が海外で病気や事故にあい、現地に適切な治療ができる医療機関がない場合に、近隣国(都市)の医療施設へ緊急医療搬送を行う。
  - 疾病が重症化し、現地の医療機関では治療が困難と判断した場合には、医師・看護師を日本から現地に手配し、民間機あるいはチャータージェット機により患者を日本に帰国搬送して治療する。
  - 医療搬送には入院継続が必要な患者や、航空機内の低酸素・低圧環境が病状を悪化させる疾患の患者に対応する専門的な医療知識が必要となる。
  - 日本人の医師・看護師が医療器材と共に直接現地病院まで迎えに行き、「病院を出発すればすべて日本語」という環境を提供することで患者の思い・ニーズに応える。

国際医療搬送の点では、小石川インターナショナルクリニックと強く連携



※小石川インターナショナルクリニック

医療搬送業務、海外渡航時の予防接種、国内ホテルに宿泊する外国人の往診業務などで幅広く協業を実施。

院長 川合 明彦(かわい あきひこ)

KIC HP <http://www.kic.clinic/>



# アシスタンスで お客様の世界を広げる

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

Copyright ©Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社